

## 半促成栽培におけるシトウガラシの新誘引整枝法

### [研究のねらい]

シトウガラシは施設内で栽培すると、草丈が高くなるため、風通しや果実などへの日当たりが悪くなり、花落ち、障害果の発生など果実品質の低下の原因となり、作業性も悪くなります。そこで、果実の着果安定、品質向上並びに省力化を狙いとした誘引整枝法を開発します。

### [研究の成果]

- ①本誘引整枝法は主枝4本のうち2本を畝と斜め方向にV字状、同様に他の主枝2本を畝と平行にV字状に誘引する方法です。草丈が80~90cmまでは全ての主枝を外側の支柱に誘引し、その後対角の2本の主枝はそのまま誘引を継続し、他の2本の主枝は畝の中央に張ったエスター線に誘引します(図1、2)。
- ②主枝をクリップで固定した位置から生長点まで25~30cm程度まで垂らしながら逐次誘引する新誘引整枝法を行うと、草丈は外側4本の慣行誘引法に比べて約20cm程度低くなります(図3)。
- ③上物果及び総収量は、慣行の外側主枝4本誘引法に比べて新誘引整枝法が多くなります(図4)。
- ④収穫時の作業性は、慣行の外側主枝4本誘引法に比べて新誘引整枝法は、草丈が低く、主枝が中央、外側と交互に誘引されているため、収穫しやすくなります。

### [成果の活用面・留意点]

- ①新誘引整枝法の場合、中央及び外側に誘引する各2本の主枝は、慣行の逐次誘引する方法では生育にスピードの差異が生じます。そこで、中央に誘引する主枝はテープ止め位置から生長点まで25~30cm、同様に、サイドに誘引する主枝は20~25cm程度垂らした後に誘引紐に固定を繰り返します。

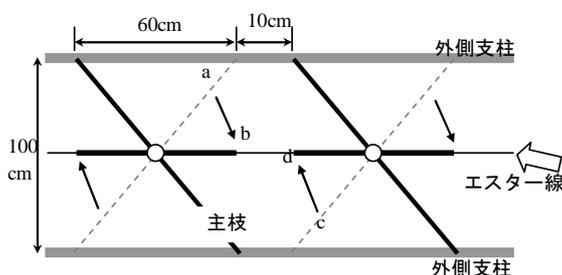


図1 新誘引整枝法(上から見た平面図)

注)主枝は4本仕立てとし、草丈が80~90cmに生育した頃、外側に誘引した主枝aを中央のエスター線bの位置に、同様に主枝cはdに誘引し直す。

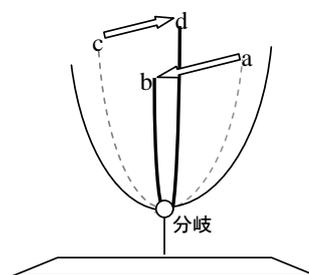


図2 新誘引整枝法(図1を←から見た図)

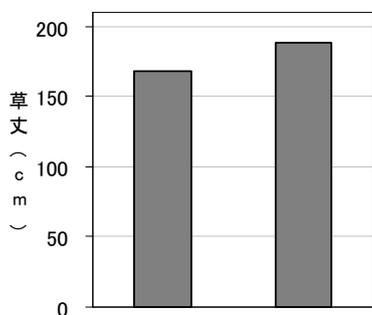


図3 半促成栽培における整枝法と収穫終了時の草丈

注)株元から主枝の生長点までの平均高さ

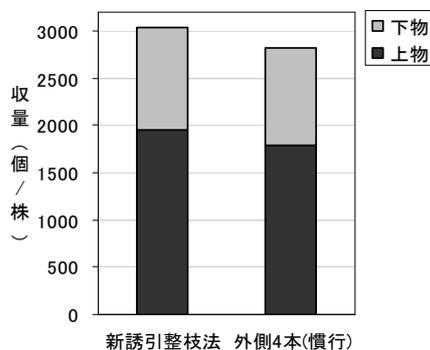


図4 半促成栽培における整枝法と可販果収量

注)播種:1998年1月22日、定植:3月12日、収穫:6月~10月、上物:果長(5.5~6.5cm)、極端な曲がり果は除く、下物:上物果以外の可販果

実施年度:平成7~12年

担当者:神藤 宏